

# 東京教区 礼拝音楽 NEWS

## 第3号

2020年11月18日

編集・発行／日本聖公会東京教区 礼拝音楽委員会

[reihaiongaku.tko@nssk.org](mailto:reihaiongaku.tko@nssk.org)

今号は、祭色について取り上げました。長い緑色の期節を過ぎたあと、紫に変わる今からの半年、教会はダイナミックに動いていきます。

後半ページではコロナ禍にある私たちの心を考えます。不安に勝つ心とは…？

## 色で感じる教会暦のダイナミズム

礼拝音楽委員会オルター部会

9か月に及ぶ新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、教会によって状況はそれぞれ異なると思いますが、オルターギルドとしてのご奉仕が思うようにできずにいる方も多くいらっしゃることでしょう。本委員会で12年間続けてきました「ベストリーツアー」（オルターギルドの奉仕の現場－各教会のベストリーを訪問し、礼拝の備えや工夫を拝見）も、今年は残念ですが断念することになりました。

そんな中、猛暑となった夏に聖アンデレ教会へアメリカのアルミー社から小包が届きました。開けてみると、下条裕章司祭が注文されたマスク5色セットが並んで入っていました。まさに祭色に合わせたもので、世界的な厳しい感染状況の中で、ポジティブな取り組みを感じました。

今年は大斎、イースター、聖霊降臨日、三位一体主日を含む期間が礼拝（公禱）休止となったため、聖堂の中で何げなく目にしてきた「色」に触れる機会が失われ、これまで自然に受けとめていた教会暦の「期節」を感じにくかったのではないのでしょうか。そこで今号では「祭色」について改めて触れてみたいと思います。



### 「祭色」が表すもの

祭色は、教会の期節を視覚的に示し、礼拝の意図を明確にする働きを持っています。聖具や聖卓・聖書台・説教壇等を覆う布類、礼拝の時に司式者が着用する祭服などに適用されています。

各祭色が表す意味に基づいて礼拝に用いる色が定められています。といっても、実は日本聖公会では祭色についての公式な規定はありません。多くの教会でほぼ同じ祭色が用いられているようですが、基本的にはそれぞれの慣習に任されています。

しかし色の意味を知ることは、礼拝の意図と、キリストの生涯を辿る教会暦を理解する手助けとなることでしょう。現在、主に用いられているのは次の四色です。



純粋、喜びを表す色として、主として主イエスに関する祝日を始めとする期節や機会に用いられます。具体的には、降誕日から顕現後第1主日まで、復活日、昇天日、三位一体主日、主イエス変容の日、諸聖徒日、入信の式、聖婚式、葬送式、礼拝堂聖別式などです。かつては黒が用いられてきた葬送式も、復活のシンボル、新たな国への出発の時ととらえ、白が使われるようになりました。



説教壇の布



血のシンボルとして殉教者、また聖霊の炎を表す色です。私たちが聖書に導かれて決心を固めて一步を踏み出すような機会も、聖霊の働きを示す赤が祭色となります。聖霊降臨日、聖週、聖職按手式、殉教者の記念日などです。かつて黒が用いられた聖金曜日も現在は赤が用いられています。



献金袋



紫は古代社会では王権を示す色でしたが、現在では慎み、懺悔、待望を表現します。降臨節と大斎節が紫の期節です。教会によっては、紫の代わりに濃い青を用いる場合もあるようです。また、英国聖公会の伝統では、降臨節に聖母の色である「マリアン・ブルー」を使う習慣があります。主イエスのご誕生を待ち望む降臨節は、聖母マリアの期節でもあるということでしょう。



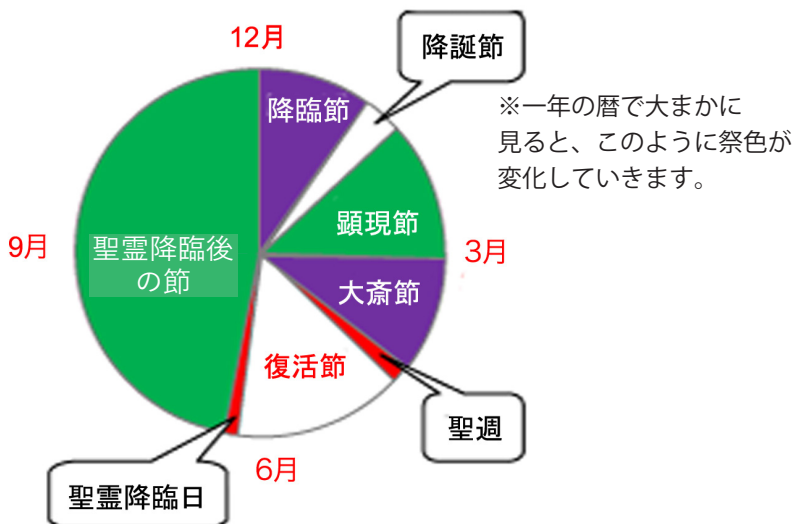
聖餐式用の聖布類



神の恵みと成長、生命、希望、発展を表し、顕現節（顕現日から顕現後第1主日を除く）と聖霊降臨後（三位一体を除く）の長い期間に用いられます。私たちが最もよく目にしている色でしょう。オルターギルドの皆様にとっては、暑い夏に用いられることも含め、メンテナンスが一番大変な色ですね。



チャリス（聖杯）を覆う布  
＝チャリス・ベール&バース



聖職が身につけるストール施されている刺繍にもそれぞれ象徴的な意味がありますが、それはまた別の機会に…

間もなく教会の新年、降臨節を迎えます。教会の暦が紫の期節で始まることは、「つつしみ」と「希望をもつこと」がわたしたちの生活においていかに大切なことであるかを表しているように思われます。

みなさま、どうぞ良い降臨節、そしてクリスマスをお迎えください。

【参考文献】

『私たちと礼拝』 竹内謙太郎著  
『美しい献げ物』 桑山隆著  
『聖公会カレンダー』

今年とは特別な1年になりました。世界中の人々が遭遇したことの無いウイルスによって、私たちの生活がこんなにも大きく変わるとは…。マスクにソーシャルディスタンス。慣れ親しんだ形での礼拝を捧げることもかなわず、皆で一緒に主を賛美する歌声を、心置きなく響かせることもお預けの状態が続いています。長期化する感染状況の中で、心も身体も健康に保つのは本当に大変ですね。新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行は身体へのダメージだけではなく、メンタルヘルスにも様々な影響を与えています。

あるカウンセリングの研究会で、自らクリスチャンであり児童精神科医の田中哲(さとし)先生から「コロナ禍での子どもの心」について講話をうかがう機会がありました。コロナ禍のような強いストレスの下で、子どもはどのような心の反応を示すのでしょうか。その一部を紹介します。

田中医師によると「コロナ不安の正体」は4つ

- ・ 日常 (= 「いつも」) が見えなくなることの不安
- ・ 戦う相手が見えないことの不安
- ・ いつ終わるのかわからない不安
- ・ いつもならあてになる大人たちが頼りにならない状況…

これらにより子どもたちは大人が思っている以上にストレスを受け、春頃には「学校がなくてラッキー！」と言っていた子どもたちが5月下旬から6月にかけて徐々に変化を見せ始め、「やる事が幼くなった」「一人で寝られなくなった」「甘えが強くなってベタベタしている」「おねしょをするようになった」など様々な心因性の反応を示すようになったそうです。そして、これらはますます深刻化することが危惧されています。

では、不安の中で生き延びるためにはどうしたらよいのでしょうか？

田中医師はひとりの男の子のエピソードを挙げました。コロナで学校や幼稚園がお休みの間、たくさんの時間を利用して一生懸命練習し、自転車に乗れるようになった男の子がいたそうです。「ぼくね、自転車に乗れるようになったんだよ！！」と元気いっぱいの笑顔で話してくれた男の子。これこそ「コロナに勝つ」ということではないかと田中医師は語ります。ナルホド。どんな状況であっても、希望を見失わず、前向きに、ポジティブな発想で何かを獲得していく。そして「こんなことができるようになったんだよ！」と喜びへと変えていくチカラ。それこそが不安を生き延びる戦術の1つといえるのかもしれません。

子どもが感じる不安や心の変化は、私たち大人にも通じるところがあるように思います。日々み言葉と祈りに支えられ、主への賛美の歌や音楽によって力を与えられている私たち。どのような状況であっても「こんなことができるようになったんだよ！」という喜びを積み重ねていこうではありませんか。たとえ小さな喜びであっても、感謝とともに捧げれば、きっと主は豊かに用いてくださるはずですよ。

♪ 恐れにとらわれ さまよう闇路に ひるまぬ心を お与えください… (聖歌 477 番)

このアドベントが感謝と喜びとともに、希望の光を待ち望む良き備えの時となりますように。

(礼拝音楽委員、看護師)





「何の心配もなく集い歌えるようになった“その時”、  
礼拝で皆さんと歌いたい聖歌をお聞かせください。」

礼拝音楽委員会では、この10月後半に聖職方を対象にこんなアンケートを行いました。

もちろん、今は自由に歌うことはできませんが、“その時”を仮定して聖歌に思いを馳せていただいたら、どんな聖歌が挙げられるだろうか…と考えました。回答は、高橋主教さまから聖職候補生の皆さまに至るまで、多くの先生方から寄せられました。お忙しい中、ご協力くださいましたことに御礼申し上げます。

回答者数：24

2	風に目を覚まして
32	この日も暮れゆきて
69	もろびとこぞりて
103	うまやのあかり
159	ほろぶるものを
160	ハレルヤハレルヤ 喜び歌え
169	主の復活 ハレルヤ
179	暗い冬は過ぎ
204	この世に イエスのみ名を
303	わが心は 賛美に満ちる
311	天つ み使いよ
341	愛の聖霊よ
364	貧しい人に キリストは呼びかける
389	主イエスよ われらの礎となり
398	よろこばしき声ひびかせ
403	いともかしこし
419	人ごみの街に
435	主の み言葉 聞けよ
442	ともにあつまる
465	静けき川の岸辺を
473	見つめます 心から
476	暗闇行くときには
483	神の国と神の義を
517	主が来られたから
521	主よ 終わりまで
527	傷ついた人の
古今 174	東の空は あけわたり
古今 137 II	この世のいくさを終え

いかなる日々にあっても、一日一日、世界の諸々の現象、出来事の細部にまで行き渡る神さまの思いに改めて感謝を込め、32番を歌いたいです

クリスマス→十字架と一直線につながっているのを感じる

日本聖公会産のイースターの歌、「尽きせぬ命の春は来たれり」(2節)って本気で歌いたい

太鼓を叩き踊りながら復活して下さった喜びを歌える

← コメントの一部をご紹介します

⇒ こんな回答も

Hymnal1982- 195	Jesus lives! thy terrors now
Hymnal1982- 318	Here, O my Lord I see thee face to face
神学院での学びで訳した「イエスはパンを分かち」	
選べません。むしろ、全部です！	
教会暦にふさわしい聖歌をともに歌いたい	

苦しんでいる人たちが心から「喜べる」時、というイメージで

「おりかえし」の歌詞は、心に留め続けたい祈りでもあると思っているので。 *♪世にある限り～*

10年近く前、教区フェスティバルでの教役者たちの出し物として465を合唱。当日はサングラスをかけてという指示もあったりして、愉快的思い出

..... 4名のかたが挙げられました

教会とは、わたしたちが集い、礼拝をささげる意味は、源はどこにあるのか、ともに確認しあいたい

「いくさ」はいけないのかもしれませんが詩は聖歌集 204 II より好きです